

# コンピューティングサーバUCS C240 M4の交換 – vEPC

## 内容

[概要](#)

[背景説明](#)

[省略形](#)

[MoPのワークフロー](#)

[前提条件](#)

[バックアップ](#)

[コンピューティングノードでホストされるVMの特定](#)

[グレースフルパワーオフ](#)

[ケース1.コンピューティングノードホストのみSF VM](#)

[SFカードをスタンバイ状態に移行](#)

[ESCからのSF VMのシャットダウン](#)

[Nova集約リストからの計算ノードの削除](#)

[ケース2.コンピュートノードホストCF/ESC/EM/UAS](#)

[CFカードをスタンバイ状態に移行](#)

[CFとEM VMをESCからシャットダウンします。](#)

[ESCをスタンバイモードに移行](#)

–  
[Nova集約リストからの計算ノードの削除](#)

[コンピューティングノードの削除](#)

[サービスリストからのコンピューティングノードの削除](#)

[Neutronエージェントの削除](#)

[Ironicデータベースから削除](#)

[オーバークラウドから削除](#)

[新しいコンピューティングノードのインストール](#)

[新しいコンピューティングノードをオーバークラウドに追加する](#)

[ポストサーバ交換設定](#)

[VMのリストア](#)

[ケース1.コンピューティングノードホストのみSF VM](#)

[Nova集約リストへの追加](#)

[ESCからのSF VMリカバリ](#)

[ケース2.コンピュートノードホストCF、ESC、EMおよびUAS](#)

[Nova集約リストへの追加](#)

[UAS VMのリカバリ](#)

[ESC VMのリカバリ](#)

[ESC回復障害の処理](#)

[構成の自動更新](#)

[Syslogの有効化](#)

[関連情報](#)

# 概要

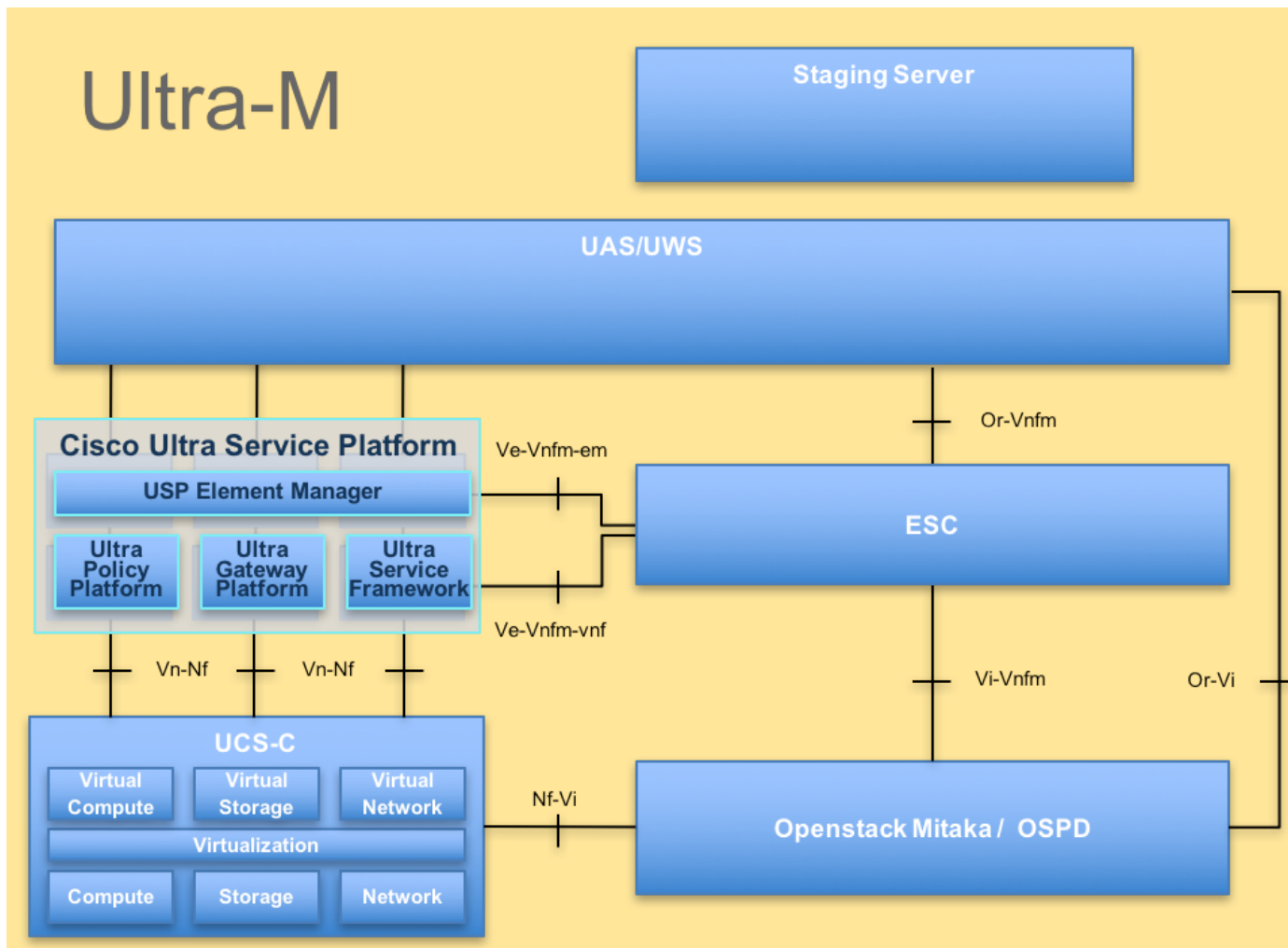
このドキュメントでは、StarOS Virtual Network Functions(VNF)をホストするUltra-Mセットアップで故障したコンピューティングサーバを交換するために必要な手順について説明します。

# 背景説明

Ultra-Mは、VNFの導入を簡素化するように設計された、パッケージ化および検証済みの仮想化モバイルネットワークコアソリューションです。OpenStackは、Ultra-Mの仮想化インフラストラクチャマネージャ(VIM)であり、次のノードタイプで構成されています。

- 計算
- オブジェクトストレージディスク – コンピューティング ( OSD – コンピューティング )
- コントローラ
- OpenStackプラットフォーム – Director(OSPD)

Ultra-Mのアーキテクチャと関連するコンポーネントを次の図に示します。



UltraMアーキテクチャ

このドキュメントは、Cisco Ultra-Mプラットフォームに精通したシスコ担当者を対象としており、コンピューティングサーバ交換時にOpenStackおよびStarOS VNFレベルで実行する必要がある手順の詳細を説明しています。

注：このドキュメントの手順を定義するために、Ultra M 5.1.xリリースが検討されています。

## 省略形

VNF	仮想ネットワーク機能
CF	制御機能
SF	サービス機能
ESC	Elastic Service Controller
MOP	手続きの方法
OSD	オブジェクトストレージディスク
HDD	ハードディスクドライブ
SSD	ソリッドステートドライブ
VIM	仮想インフラストラクチャマネージャ
VM	仮想マシン
EM	エレメント マネージャ
UAS	Ultra Automation Services
UUID	ユニバーサル一意IDentifier

## MoPのワークフロー

